
令和7年度北海道稚内高等学校衛生看護科

第58回 戴帽式 式辞

令和7年9月12日（金）

暦で迎えた秋を、朝夕の風に感じる事ができる本日ここに、多数のご来賓並びにご家族の皆様のご臨席を賜り、北海道稚内高等学校衛生看護科第58回戴帽式を挙行できますことを、心より厚くお礼申し上げます。

3年生23名の皆さんの中には、自らの未来に看護職を求め、自宅から離れての本校進学の決意固めた方もおられます。志を同じくして学んできた全員が、およそ2年半の学びを経て、臨地実習を迎えるにふさわしく、この戴帽式を挙行することができた本日を、とても喜ばしく思います。5年一貫で看護を学ぶ過程を考えると、ちょうど振り返りに来たと、捉えることができます。これまでの基礎的な学習の成果を踏まえ、実践的な学びに当てはめながら、学習の転移、知識の技能化へすすめていくステージに上がっていきます。

さて3年生の皆さん、戴帽式の中で唱える「ナイチンゲール誓詞」は、100年以上前に、看護を志す人々の誓いとして生まれたことは、承知しているかと思います。その中には「自分の務めを誠実に果たす」という言葉があります。これはただ規則を守るという意味ではなく、人の命を大切にし、相手の気持ちに寄り添うという、看護の基本となる姿勢を表しています。

もちろん、この誓詞が作られた時代と今とでは、医療を取り巻く状況は、大きく違います。医療の技術は進歩し、患者さんの背景や考え方も多様になりました。かつては「献身的に尽くすこと」だけが重視されていましたが、今では「患者さんの意思を尊重すること」や「仲間と協力してチームで支えること」も、とても大切にされています。つまり、誓詞の精神をそのまま受け継ぐのではなく、現代の医療の中でどう生かすかを、考えることが求められているのです。

臨地実習は、まさにその答えを自分で求めていく「探究の場」になるでしょう。教室で学んだことがうまくいかずに悩むこともあるかもしれませんが、でも、患者さんの一言や優しいまなざしから学ぶこと、仲間や先輩と助け合う中で気づくことも必ずあります。そうした経験が、皆さんを一人前の医療人へと、一步步成長させてくれるのだと信じています。

今日、皆さんが身につけたナースキャップ・コサージュは、伝統と未来をつなぐシンボルです。その灯を胸に、看護の道を目指したあの日の志を忘れず、誇りと責任を持って実習に臨んでください。皆さんが、これから大きく飛躍していくことを、心から期待しています。

令和7年9月12日

北海道稚内高等学校長 小林 洋 介